

▶12月3日(金)

【弘前城築城400年祭記念事業】

ワーナー・マイカル・

シネマズ弘前

『いこかもどろか』

▶12月4日(土)

弘前中三8F・スペースアストロ

『明日へのチケット』

『今夜、列車は走る』

『動脈列島』

『新幹線大爆破』

▶12月5日(日)

弘前中三8F・スペースアストロ

『プラットホーム』

『家族』

『張込み』

『特急にっぽん』

ワーナー・  
マイカル・  
シネマズ弘前

弘前中三8F・  
スペースアストロ

# ひと足 お先の 映画祭



# 列車

# の到着

# !

HIROSAKI

AOMORI

MORIOKA

TOKYO

主催.....ひと足お先の映画祭実行委員会  
共催.....弘前城築城400年祭実行委員会  
後援.....弘前市、弘前市教育委員会、弘前観光コンベンション協会、  
弘前商工会議所、東奥日报社、陸奥新報社、NHK文化センター弘前教室、  
東日本旅客鉄道 秋田支社、弘南鉄道  
協力.....東京国立近代美術館フィルムセンター、  
ワーナー・マイカル・シネマズ弘前、弘前中三、NPO harappa



## 『いこかもどろか』



1988年／東宝＝東京放送／  
105分／カラー／ビスタ  
監督 | 生野慈朗  
脚本 | 鎌田敏夫  
撮影 | 仙元誠三  
出演 | 明石家さんま、大竹しのぶ、  
小林稔侍、渡辺えり子、ベンガル

◎東北新幹線が盛岡までしか来なかった頃、福島で途中下車したさんまとしのぶは貨物自動車の荷台に隠れて東京に戻るつもりが、着いた所はなんと青森。刑事からも暴力団からも追われるずっけ二人組の逃避行(ゲッタウェイ)だ。青森のアスパム展望室でさんまを待つしのぶがいじらしい。アスパムがなんだかニューヨークの摩天楼のように見えてくる。そして二人はめでたくこの地で結ばれる。次は津軽海峡を渡って悪徳刑事との対決だ！ この映画、おかしくてせつなくて愛らしく、いつしか二人を応援したくなる。



## 『明日へのチケット』



2005年／イギリス・イタリア／  
110分／カラー／ビスタ  
監督 | エルマンノ・オルミ、  
アッバス・キアロスタミ、ケン・ローチ  
脚本 | エルマンノ・オルミ、  
アッバス・キアロスタミ、ポール・ラヴァーティ  
撮影 | マームード・カラリ、  
ファビオ・オルミ、クリス・メンゲス

出演 | マーティン・コムストン、カルロ・デッレ・ピアーネ、フィリップ・トロジャーノ、  
ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ

◎『木靴の樹』のエルマンノ・オルミ、『桜桃の味』のアッバス・キアロスタミ、『麦の穂をゆらす風』のケン・ローチ。カンヌ映画祭を制した3人の巨匠が共同監督という形で作り上げたヒューマンドラマ。インスブルックからローマへ向かう列車を舞台に、進行する3つのストーリー。仕事相手の企業の女性秘書に淡い恋心を抱く老教授、将軍の未亡人の理不尽な扱いに苦悩する兵役中の青年、敵地ローマに乗り込むセルティックのサポーター3人組。彼等とアルバニア移民の家族が織りなす3人の監督による1本の長編。

12月4日午前10時01分、  
東京発はやて11号が新青森駅に到着する。  
列車の到着！

1896年、リュミエール兄弟が  
パリのグラン・カフェで上映した  
「列車の到着」が映画の原点であるならば、  
ここ弘前でも新幹線の到着を、  
映画でもってお祝いしよう。  
スクリーンの中で列車が  
ごんごんごんごん近づいてくるのを見て  
度肝を抜かしたかつてのパリの観客たち。  
私たちも、12月3日から3日間、  
いつもは脇役の映画の中の列車に  
目を向けてみようではないか。

## 『今夜、列車は走る』



2004年／アルゼンチン／  
110分／カラー／ビスタ  
監督 | ニコラス・トゥオッツォ  
脚本 | マルコス・ネグリ、  
ニコラス・トゥオッツォ  
撮影 | パブロ・デレーチョ  
出演 | ダリオ・グランディネディ、  
メルセデス・モラン、ウリセス・ドゥモント、  
パブロ・ラゴ、バンド・ピリヤミル

◎民営化のあおりで鉄道の廃線が決まったアルゼンチンの町。労使交渉は決裂、自主退職を強いられる5人の鉄道員たちは、立てこもり、再就職とあがくも突破口なく、どん底へ。その姿はもはや(今の日本においては)他人事ではない。原題は『次の出口』。人間くさい5人におかしくも心乱され、「運命は変えられるのか?」と問う若者たちの疾走に希望を見せられる。監督は1970年生まれ、第3世代のケン・ローチとの呼び声も高い。「今夜、列車は走る」それだけで、私たちは涙するのだ。

## 『動脈列島』



◎東宝

1975年／東宝＝東京映画／  
121分／カラー／シネスコ  
監督 | 増村保造  
原作 | 清水一行  
脚本 | 白坂依志夫、増村保造  
撮影 | 原一民  
出演 | 田宮二郎、近藤正臣、  
関根恵子(高橋恵子)、梶芽衣子

◎東海道新幹線が開業した1964年10月に『黒の超特急』(大映)で、山陽新幹線の用地買収にからむ汚職の物語を撮った増村保造による社会派サスペンス映画である。新幹線から爆発物と脅迫状が発見される。騒音と振動という新幹線公害に悩む沿線住民の問題を解決しなければ、10日後に新幹線を転覆させるというのだ。犯罪科学研究所所長・滝川(田宮二郎)の捜査線上に、青年医師・秋山(近藤正臣)が浮かびあがる。新幹線を日本列島の動脈に例えた題名は、青森開業の今日こそふさわしい。

【弘前城築城400年祭記念事業】

# ひと足お先の 映画祭

列車の到着!

## 『家族』



1970年／松竹／  
107分／カラー／シネスコ  
監督 | 山田洋次  
脚本 | 山田洋次、宮崎晃  
撮影 | 高羽哲夫  
出演 | 倍賞千恵子、井川比佐志、  
笠智衆、前田吟、瀧美清

©1970松竹

●1970年4月。2人の幼児を抱えた夫婦(井川比佐志、倍賞千恵子)と祖父(笠智衆)は、住み慣れた長崎の伊王島を旅立つ。一家は斜陽産業の炭鉱に見切りをつけ、北海道の根釧原野の開拓部落に農業移殖するのだ。日本列島を縦断する3000キロの鉄道の旅は、高度経済成長がもたらした繁栄と貧困のひずみを明らかにする。一家は繁栄の象徴である大阪梅田駅の雑踏、大阪万博に押し寄せる群衆に呆然とする。上野の旅館で起こった悲劇を乗り越えて、約束の地に辿りついた歓迎会の夜、祖父は自慢の歌を披露する。

## 『新幹線大爆破』



1975年／東映／  
152分／カラー／シネスコ  
監督 | 佐藤純彌  
脚本 | 小野竜之助、佐藤純彌  
撮影 | 飯村雅彦  
出演 | 高倉健、宇津井健、  
千葉真一、田中邦衛、山本圭

写真提供・東京国立近代美術館フィルムセンター

●東京発博多行き「ひかり109号」に爆弾を仕掛けたという脅迫電話がかかってくる。時速80キロを下回ると爆発する爆弾の解除法は、100万ドル(当時の為替レートで3億円)と交換だ。博多到着までの時間を引き延ばし、人質となった乗客の安全を優先しようとする国鉄と犯人逮捕を焦る警察の対立、身代金の受け渡しと爆弾の解除法をめぐるさまざまな混乱。1500人の乗客を乗せた新幹線は、ノンストップで博多に向かう。サスペンスを満載したパニック映画の傑作は、海外での評価も高い。●東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品

## 『張込み』



1958年／松竹／  
116分／白黒／シネスコ  
監督 | 野村芳太郎  
脚本 | 橋本忍  
原作 | 松本清張  
撮影 | 井上晴二  
出演 | 大木実、宮口精二、  
高峰秀子、田村高廣、菅井きん

©1957松竹

●ピストル強盗犯が、かつての恋人(高峰秀子)のいる佐賀に立ち回るはずだ。警視庁の二人の刑事(大木実、宮口精二)は横浜駅から夜行列車に飛び乗り、佐賀へと向かう。50年前の列車の旅はこんなだったのかと、懐かしがる年代、びっくりする年代相半ばするはず。ようやく辿りついた佐賀の旅館で張込みを開始する。1週間が過ぎる。しかし、女のもとに犯人は現れない。あせる刑事たち。ところが…。やがてはじまる追跡そして犯人逮捕。映画の醍醐味満載である。

## 『プラットホーム』



2000年／香港＝日本＝フランス／  
151分／カラー／ビスタ  
監督 | ジャ・ジャンクー  
脚本 | ジャ・ジャンクー  
撮影 | ユー・リクウエイ  
出演 | ワン・ホンウェイ、チャオ・タオ、  
リャン・チントン、ヤン・ティエンイー

●『世界』・『長江哀歌』・『四川のうた』と近年立て続けに話題作を発表し続けている中国の若き巨匠ジャ・ジャンクー30歳の作。舞台は中国山西省の町フェンヤン。地方を旅する文化劇団のメンバーである4人の若者の、1979年から91年までの10年余が描かれる。

改革・開放のスローガンのもと中国社会がダイナミックに変貌した1980年代を、ジャ・ジャンクーは大きな事件ではなく音楽やファッションの変遷や人々の日々の暮らしを描くことで切り取った。そして4人の若者は人生の「プラットホーム」に立つ。

## 『特急につぼん』



1961年／東宝／  
85分／白黒／シネスコ  
監督 | 川島雄三  
原作 | 獅子文六  
脚本 | 笠原良三  
撮影 | 遠藤精一  
出演 | フランキー堺、団令子、  
白川由美、小沢栄太郎、中島そのみ

©東宝

●青森県出身の川島雄三監督による喜劇。原作は獅子文六。当時東海道本線を代表する特急列車であった「こだま」号の、東京駅出発から大阪駅到着までの車内が舞台。主演はフランキー堺(食堂車コック助手の喜一)と団令子(食堂車ガールのサヨ子)。恋愛中のふたりに、サヨ子を気に入る親子や元華族のステューワーデス、実業家の男、中国服の謎の女、酔いどれ老人、殺し屋スタイルの男たちが絡み合い、さまざまな人間模様が車内で展開される。そして列車は大阪を目指す…。



『プラットフォーム』

【タイムテーブル】

12月3日【金】

19:00

『いこかもどろか』

●ワーナー・マイカル・シネマズ弘前

12月4日【土】

10:30

13:00

15:30

18:00

『明日へのチケット』

『今夜、列車は走る』

『動脈列島』

『新幹線大爆破』

●弘前中三8F  
スペースアストロ

12月5日【日】

10:30

13:50

16:10

18:40

『プラットフォーム』

『家族』

『張込み』

『特急につぼん』

●弘前中三8F  
スペースアストロ

●チケット

前売 1000円 当日 1200円

※おひとり様1作品につき、  
チケット1枚必要です。

●チケット取扱

ワーナー・マイカル・シネマズ弘前/  
弘前中三/紀伊國屋書店弘前店/  
弘前大学生協/  
まちなか情報センター/  
弘前商工会議所/  
成田本店しんまち店(青森)

●問合せ・チケット予約

harappa 事務局  
Tel. 0172-31-0195  
e-mail. post@harappa-h.org  
www.harappa-h.org

『いこかもどろか』

ワーナー・マイカル・シネマズ弘前

●青森県弘前市高崎2丁目15-1  
0172-26-1113

弘前中三 8F  
スペースアストロ

●青森県弘前市土手町49-1  
0172-34-3131

中三指定駐車場

- ▶ 中三徒町駐車場
- ▶ ナカサンパーキング一般有料駐車場
- ▶ したどてスカイパーキング

3時間まで無料サービス

上映会場受付に駐車券をご提示下さい。



弘前城  
築城400年祭